WEB版

ことぶき共同診療所だより

第37号

2014年7月12日発行

〒231-0025 横浜市中区松影町2-7-17 リバーハイツ石川町1･2F
電話とファックス　045-651-2305(診療所)　045-305-4322(鍼灸院・資料室)
E-Mail　info@kyoudouclinic.com
http://kyoudouclinic.com

発行：医療法人ことぶき共同診療所

目　次

２０１４年上半期を振り返って‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 鈴木　伸 ②
裂き織りのその後‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 船崎　葉子 ④
『寿町ドヤ街』の第８号を刊行しました。‥‥‥‥‥ 松本　一郎 ⑤
“診療室から”（33）－ 鍼灸院の日々のこと －‥‥‥‥‥ 新井　育子 ⑥
寿町・あれこれ ⑤ 寿町の高齢化の現状‥‥‥‥‥‥‥ 松本　一郎 ⑦
職員自己紹介 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 吉廣優子、郡司孝行 ⑨
診療所日誌('13年12月～'14年6月)‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 矢島　雅子 ⑩
寿町地域ニュース・あらかると('13年12月～' 14年6月)‥ 松本　一郎 ⑪
共同診療所・鍼灸院ガイド‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ⑫

2014年上半期を振り返って

【はじめに】

はやいもので、2014年も半分が過ぎてしまいました。毎回書いているのでくどいようですが、40才を越してから時間が進む速度が加速度的に速くなっているようです。小学生のころは1日がすごく長く、緩やかに感じられたことを思い出しました。「やはり、時間は伸び縮みするのだ。アインシュタインは正しかった･･･。」などと、しょうもないことを考えながら、日々訪れる患者さんの波に飲まれている毎日です。というわけで、上半期を「こぴっと」振り返ってみたいと思います。

【「魔の年末年始」はことしも･･･】

年末年始というのは、世間一般的では「おめでたい」時期ということになります。しかし、診療所にとってこの時期は「魔の時期」になります。まず診療所が休みになります。また、世の中全体がお祭りムードが漂いふわふわとしてきます。すると、いままで断酒できていた人達もそうした雰囲気にのまれて(?)スリップしてしまうということが例年おこります。診療所は 12/29-1/3で6日間の休診とし、1/4の土曜日は1日でも早く診療所を開けないとという思いから開けました。しかし、スリップをする人が続出しました。中には、断酒してやり治そうと入院し退院目前だったのに病院から失踪してしまったり、数年間断酒しアパートに移り安定していた方がスリップしてしまったこともありました。例年にも増して「魔の時期」ぶりが発揮された印象です。こんな時は、ある程度覚悟はしていてもスタッフ一同がっかりくるものです。しかし、落ち込んでばかりもいられません。「依存症の治療にはスリップがつきもの。スリップを生かして次の治療につなげる」「七転び八起きの精神で」など、みなさんに語っていることをあらためて自分たちに言い聞かせてのスタートでした。

【新鋭きたる～吉廣先生、OT郡司さん】

そんな落ち込み気味のスタートをきった診療所でしたが、1月半ばから待望の新鋭ドクターが加入しました。佐賀県出身の吉廣優子先生です。吉廣先生は地元佐賀の大学を卒業後、福岡で救命救急のDrとして長年第一線で働いてこられました。そんな先生がなぜ診療所にと思って疑問をぶつけると、「もともと、地域医療をやりたかったんですけど。その前に、救急がキチンとできないと命が救えないとおもって救急をやっていたら思いのほか長くなってしまって。ようやく地域にこれました」

とのこと。診療所に具合の悪い患者さんが来ると、救急モード(?)に入り、素早く、的確な診察で患者さんの状態を把握してくれます。また、普段の診察でも持ち前のはきはきとした、さわやかな診察で早くも患者さんの心を鷲づかみにしています。この前までなかなか診察にきてくれなかった患者さんが、吉廣先生にかわってからはきちんと診察に来てくれる姿もしばしば目にします。早くも「吉廣マジック」全開です。

また、5月からはOTの郡司孝行さんが来てくれるようになりました。郡司さんはかつて、せりがや病院で働いていたことがあり、その時のアルコール依存症の患者さんとの触れ合いに強烈な印象を受けたようです。せりがや病院を去ってからもどこかでアルコール依存症の患者さんと接する機会がないものかと職場を探していたとのこと。依存症の治療に携わっている人がしばしば陥る「依存症医療依存症」のようです(かくいう私もその一人ですが)。さっそく、デイケアに入って頂き、新しい支援の方法を実践していただいたりと、やや停滞ムードであった診療所がリフレッシュしている感があります。吉廣先生、郡司さん、今後も末永くよろしくお願いします。

【寿の鬼才！　西川さんの話が本に！『毎日あほうだんす』出版される】

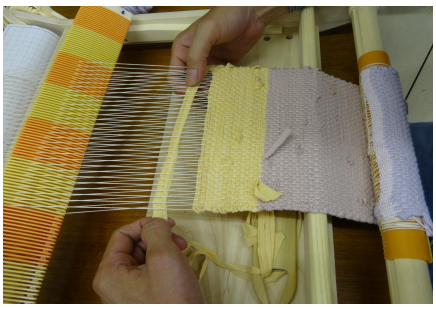
3月に寿町の鬼才！西川紀光さんの口述筆記『毎日あほうだんす』(キョートット出版)が発刊されました。聞き書きの著者は、長年日本の寄場を渡り歩きフィールドワークをしてきた社会文化人類学者トム・ギル明治学院大学教授。若き日のトム先生が寿町で西川さんと知り合い、親交を深める中で、人柄も去ることながらその博覧強記ぶりに感動。「この人がいなくなったら図書館が一つなくなってしまう。この人が存在した証を自分が聞き書きをして残さなくては。」との使命感から、長年聞き書きをしたものをまとめて出版したものです。内容は西川さんのライフヒストリーに始まり、歴史談義、ポストモダン思想についてなど多岐にわたっています。表題の「あほうだんす」をめぐるエピソードが面白いので、「あほうだんす」とはなにか？を是非ご一読してみてください。本の帯の推薦者は、かつての「ネオアカ」(もはや死語ですね)の旗手中沢新一先生、さらにアーサー・ストックウィンオックスフォード大学名誉教授と超豪華な顔ぶれです。アマゾンでは品切れで、中古品も早くも定価の3倍の値がついております。実は、診療所では数冊ストックがございますのでご希望の方はお早めにご連絡ください。

【田中名誉医院長しばらく「休憩」のおしらせ】

当診療所を立ち上げ、長年診療をしてきた田中俊夫名誉医院長が、病気の療養のためしばらく診療所をお休みすることになりました。患者さんの信頼も厚く、「俊夫さんでないと」という患者さんのために70 才をこえても診療を続けてこられましたが、今回病気が長引き、当分お休みになられます。

（医師　鈴木　伸）

裂き織りのその後



診療所だよりで「裂き織り始めました。」と宣言して早一年と半年。もう、そんなに時間が経ったのですね。あれから、我ら裂き織り班は、諸事情によりメンバーの入れ替わりはあったにせよ、相変わらず織り続けています。

同じ作業ばかりではあきるので（一番あきやすいのが、スタッフ船崎かもしれませんが）、収穫された綿花の種取り作業や、古着の綿シャツを裂き、横糸を作る作業などに随時切り替えつつ、ゆっくりペースを維持しています。これからは、合間をみて草木染も取り入れていこうと思っている今日この頃です。

Sさんが植えた和綿が芽吹きました。

現在、2台の織り機と3人のメンバーが、毎週木曜日の午後、作品作りに勤しんでいます。織りで一番神経を使うのは縦糸張りで、糸かけの手順を覚えるのは、なかなか簡単ではありません。織り機に縦糸をセットするときが、一番緊張するのではないかと思います。糸がぴんと張られ、そうこう（横糸を打ち込む道具）がセットされて一息（そして、皆さん、ほっとタバコを一服と）。それから、機織りがスタートです。

糸をたぐる強さや緩みは、手先の感覚で覚えていくものなので、やはり作品の数をこなしていくしかありませんが、なんだかんだと、一年半。手を動かしながら、ああでもないこうでもないとおしゃべりも混ぜながら、気が付くと今年の勤労協の造形作品展に出品することも出来ました。あきずに、ゆっくりやりましょう。結果は後からついてくると信じつつ。そして裂き織り班の皆さん、これからもどうぞよろしくお願いします。　（船崎　葉子）

『寿町ドヤ街』の第８号を刊行しました。

今年の 3 月に、『寿町ドヤ街』の第８号を発刊しました。全体のタイトルは、「寿町との関わり －寿町での活動を振り返って－」です。内容は 3 部構成で、総ページ数は 113 頁となりました。

第1部は、2013 年 3 月 24 日に開催された「田中俊夫講演会」の記録です。当日の会場はかながわ労働プラザ（Lプラザ）で、100 名を超える参加がありました。田中さんが寿町で活動（仕事）をする経緯から現在に至るまでの歩みが、かなり詳細に語られています。私も含め、同時代を生きてきた方々にとって、共に振り返る場になりました。その他、現院長の鈴木伸さんによる田中さんの紹介（写真付き）、当日の会場での写真、講演会後に 9 階の「味彩で行われた懇親会の写真、当日資料として配布された雑誌記事（小山直哉さん執筆）および年表も掲載しています。

第２部は、寿町で活動されてきた方々に寄稿していただいた「寿町との関わり」です。寿町では、それぞれの時代、それぞれの分野での活動が生まれ、続いています。今回、講演会に出席していただいた方々を中心に、17 名の方々に振り返っていただきました。

第3部は、2013 年1月 20 日に亡くなられた、当所の職員をされていた杉本貴美子さんを偲んで、ご親族、共に活動されてきた方々（9 名）に寄稿していただき、追悼文集にしたものです。

これまで、関係機関や関係者には配布させていただきましたが、この記事を見て、読んでみたいという方がいらっしゃいましたら、当所までご一報ください。

（寿町関係資料室　松本一郎）

“診療室から”(33)

鍼灸院の日々のこと

鍼灸の治療は、患者さんとおはなしをしながら、という事が多いです。まずは普通に問診から、「今日の体調はどうですか？」「この間痛いと言っていた○○はまだ痛みますか？」という感じです。

もし、具合いが悪いとか、まだ痛いという返答があれば、もう少し詳しく症状を聞くことになります。前回のはりの治療後は少し楽になったのか？とか、天候によって症状が悪くなるか？とか、今週はどんな風に生活していたかなど、どうして痛みが良くならないのか、あるいは、痛いけど前よりは動ける範囲が広くなっているかなど探ってみたりします。そんなやりとりをしていると、話が何故だか、全く関係ない方にいってしまう事もしばしばです。洋服を脱がされ、おなかをさらけだすと、人間、心を許した気になってしまうのかな？なんて思ったりもします。

不安な気持ち、悩んでいる事、自分の生い立ち、おかあさんの事（何故かお父さんのはなしは少ない）、妻の事、子供の事、仕事の事、犯した罪の事、お酒の事など、様々な人生を教えてもらいました。

一番信じているのは、TVの健康番組の情報だと言われ、少しがっくりしたり、好きなアイドルのはなしになると、声のトーンが変わって元気な声になってしまう、うつ気味の女性がいたりで、本当に人間って面白いなぁ、色々だなぁと私自身は少し楽しんでしまっている感じです。

そして、そんなおはなしが出来ると、イライラしていた人が帰り際、ニコっと笑顔になってくれたり、治療の途中から深い呼吸になってリラックス出来ている事も少なくありません。

鍼灸のわずかな時間、その刺激によって何かから少しでも解放された気分になってもらえているとしたら、少しはこの治療がお役に立てているのではないかと、嬉しい気持ちになります。一週間に一度の距離感であるから、はなしやすいのかもしれません。もちろん、治療中、何も語らず、寝ていても十分効果はあります。人それぞれのリラックスの仕方で自己治癒力を高め、そしてそのお手伝いが出来るよう、これからも頑張っていこうと思います。

（新井　育子）

寿町•あれこれ

⑤ 寿町の高齢化の現状

寿福祉プラザ相談室(以下、相談室)は、相談調整、地域支援、地域情報・広報啓発を主要業務とする横浜市直営の生活相談所です（旧・寿生活館二階相談室)。最近では、新たに、地域支援の一環として、寿町総合労働福祉会館（センター）の建替の検討や地域防災拠点運営委員会への参加、中区役所で実施する駐輪対策への参加、寿地区寄り添い型学習等支援事業での相談の支援（生活館 2 階で実施）の業務が加わっているとのこと。当診療所は、相談室の方々には、見学者への説明や案内、資料提供など、日頃よりお世話になっています。

このような相談室の業務の中でも、「社会調査」「簡易宿泊所調査」は、町の動向をつかむための基礎資料となっており、その結果は冊子『寿福祉プラザ相談室－業務の概要－』で知ることができます（相談室で入手可)。今回の「あれこれ」では、寿町における高齢化の最新の現状を知るため、同冊子の編集担当をされている梶川さんに伺ってきました。

［資料室・松本］　寿町では、1990 年以前は全国や横浜市よりも高齢化率(人口に占める 65 歳人口の割合)は低かったのですが、1990 年代前半以降、全国や横浜市の高齢化速度を追い越し、急激な高齢化が進行しました(2013 年現在、全国 25.1%、横浜市 21.6%、寿町 50.9%)。これはどういうことでしょうか。

寿町簡易宿泊所居住者の年齢階層別分布(カッコ内は%)

	1998	2003	2008	2013
75 歳以上	196(3.0)	331(5.3)	525(8.3)	864(13.7)
70-74 歳	427(6.6)	570(9.1)	852(13.4)	1,066(16.9)
65-69 歳	807(12.4)	1,074(17.1)	1,227(19.4)	1,289(20.4)
60-64 歳	1,143(17.6)	1,240(19.7)	1,099(17.3)	1,169(18.5)
60 歳未満	3,922(60.4)	3,064(48.8)	2,635(41.6)	1,934(30.6)
計	6,495(100.0)	6,279(100.0)	6,338(100.0)	6,322(100.0)

(註)2013 年 11 月現在、60 歳以上は 69.4%、65 歳以上は 50.9%を占める。
出所　『平成 26 年度 寿福祉プラザ相談室－業務の概要－』より作成

［相談室・梶川さん］　特定の原因は分かりません。1990 年代前半以前から居住されていた方々の高齢化と、高齢になってから様々な理由で寿地区に転入された方々の増加が重複して起きたことが主な原因とみていますが、他にも原因があるかもしれません。いずれにしても、こうした高齢化の進行は寿地区に限ったことではなく、全国的な現象であり、その速度がこの地区では速かったということを示しているものです。このように考えると、全国的な高齢化社会の未来を寿地区が具体的に見せてくれているということかもしれません。

［松本］　日雇労働市場の長期停滞を背景に、若年・中年層があまり転入していないというのも、1 つの原因でしょうね。

それと、2013 年現在、70～75 歳が 1,066 人、75 歳以上が 864 人(うち、80 歳以上が 270 人)です。近年の推移をみると、60～69 歳に比べ、70 歳以上の伸びが大きいですが、これはどういう要因によるのでしょうか。やはり、高齢になってからこの町で暮らし始める人が多いということでしょうか。また、特別養護老人ホームの待機問題は出ていないでしょうか。

［梶川さん］　「60～64 歳の方々の人数は、15 年前からほとんど変わらず、65 歳以上の方々も 5 年前とほとんど変わらず、一方で 70 歳以上の方々の増加が目立つ」結果となっており、これは当相談室としても注目しています。とはいえ、寿地区の急速な高齢化の原因の特定は難しく、特定の年齢層に限ってみても具体的な理由は分からないというのが正直なところです。ただ、ご指摘のように高齢になってから寿地区に転入される方々の存在を当相談室が受ける相談の中でも見受けることはありますので、それもこうした 70 歳以上の年齢層の急速な増加につながっていることは否定できないと思います。特養の待機問題という話は具体的な言葉としては聞いていませんが、実態としてこれだけの数の高齢者を地区として受け止めていただいている中で、本来は施設入所が適当であるが、入所までの待機の場所として簡易宿泊所に宿泊される方々の存在は一定程度あるものと思います。

［松本］　介護事業所・福祉事務所・医療機関等によって生活が支えられ、高齢になっても転出しなくて済んでいる側面もあると想像します。ところで、とうとうというか、いよいよというか、2013 年、高齢化率が 50%を超えました。これはどのように見ていますか。また、今後の推移の予測や対策はどのように考えていますか。

［梶川さん］　高齢化率 50%超過という数字は、「これ以上高齢者数がその地域に占める割合が増加し続けると、その地域が自律的に人口を維持して冠婚葬祭や生活道路の管理、集落の維持といった社会的共同体としての集落の形を維持することができなくなり、集落が消滅する」という「限界集落」の考え方から注目されているようですが、寿地区の場合にはこれがそのままあてはまるかどうか不確かです。今後の推移に関しても、寿地区の人口の増減の要因は、転入という「社会増加」と、死亡という「自然減少」が多いといわれており、一般的な手法による統計的な人口推計が困難であるため、当相談室としては予測は困難だと思います。ただし、今後大幅・急速な変化が起こるということは災害など突発的な事項がない限りないだろうと考えています。

当相談室の実施している社会調査の結果は、昨年度から横浜市で実施されている寿地区プロジェクトの中でも用いられており、このプロジェクトでも高齢化に対する対策は大きなテーマになっています。今年の 4 月にまとまった寿町総合労働福祉会館再整備基本計画の中でも高齢化に対する対策が触れられていますので、今後はこれを具体的にどのように課題解決するかが大きなテーマになると考えています。

［松本］　人口の増減の要因については、現状分析や将来予測のためにも、詳細な検討が求められますね。高齢化や高齢者数の増加が強調され過ぎると、今度は死亡数や死因の動態がさらに見えにくくなる面もありますので、様々な角度から実態把握する必要があると思われます。

ともあれ、日本は西欧諸国より高齢化速度が早く早急な対策が必要といわれて来たのですが、寿町はその何倍もの早さで進んでいますね。この町で安心して暮らしていくためには何が必要か。それへの対応の仕組みづくりやアイデアは、日本の将来へのヒントになるかもしれませんね。今日は、お忙しいところ、ありがとうございました。

■<u>メモ　寿町の人口推移</u>■

寿町ドヤ街が誕生したのは、高度経済成長の初期にあたる 1956 年。労働者が全国から仕事を求めて集まり、寿町は日雇労働者の職住を一体的に提供する街として形成された。人口は、1960 年代には、一時 1 万人を超すこともあったといわれるが、1966 年の港湾労働法施行もあり、港湾日雇労働者の失職など転出の増加、転入の減少にともない、人口は減少局面を迎えた。『寿生活館事業概要 昭和 60 年』によれば、人口は 1970 年の 6,300 人から、1980 年の 4,498 人に減少した。

ところが、バブル景気が始まると建設産業の日雇労働市場が活況となり、再び人口が増加し、1985 年に 5,694 人となり、1987 年 6,004 人、1990 年以降現在までの約 25 年は 6,200 人台から 6,500 人台で推移している（最新データは、2013 年の 6,322 人）。1980 年代後半～90 年代中盤までは、バブル景気で呼び寄せられた韓国を中心とする比較的若年の移住日雇労働者が 500～1,100 人規模で暮らしていた。労働需要を背景とした転入による人口増ないし維持がこの頃まではあった。

このようにバブル経済が崩壊した 1990 年代中盤以降も人口は減少しなかったが、この主な原因は生活保護世帯の増加ということになる。1990 年に生活保護利用者（住宅扶助利用者）は 1,638 人であったが、1995 年 3,893 人、2000 年 4,627 人となり、2010 年は 5,230 人となっている（最新データは、2013 年の 5,242 人）。

（寿町関係資料室　松本一郎）

職員自己紹介

はじめまして。2014 年 2 月よりお世話になっております、吉廣優子と申します。

NGO 活動の場で土屋先生に出会い、診療所を紹介いただいたのがご縁で、外来診療をさせていただくことになりました。今まで救急医療が専門で、スピード命の医療に携わっていましたが、そうした中で患者さんとの対話や予防医学の大切さを痛感して、今後は内科外来の勉強をしていきたいと思っております。

これまで国際医療やジェンダーをはじめ、海外の貧困に興味を持っていましたが、実はドヤ街という日本の貧困はほとんど知りませんでした。見学に来た際にも、漠然とドヤ街に住む人達の“集団”に対して“怖いな”との印象を抱いたのは事実です。しかし、ドヤ街の人達は、高度経済成長に貢献した過去を持ちつつも、時代の流れに翻弄された人々である、そして基本的人権を謳い、生存権を保障する日本社会に住む貧困層である、そのことを目の当たりにして、医療だけでなく社会的にも学ぶことが多く、興味深く診療させていただく日々です。

このように内科外来の経験も浅く、勉強させていただく立場ですが、少しでもお役にたてるように頑張りたいと思っております。

最後になりますが、実は生まれも育ちも九州で、話していると方言が出るかもしれません。そんな私ですが、温かく見守っていただければ嬉しいです。

“九州よかとこやけん、一度行ってみんね。そいぎん、よろしゅうね。”（九州はいいところなので一度行ってみてください。それではよろしくお願いします in 佐賀弁）

（吉廣　優子）

☆ ★ ☆

5月よりデイケアスタッフとして働くこととなりました。現在土曜日のみの勤務と少ない機会ですが楽しく働いていきたいと思っています。

以前はアルコール依存症のリハビリを中心に病院で働いていましたがことぶきの患者さんとの関わりは意外に多く、早速診療所で何年かぶりにお会いする方も何名かおり、新しい環境ながら慣れ親しんだ感もありながら働かせていただいています。

私自身はリハビリを行う作業療法士の仕事をしています。リハビリというと骨折をしたとき、麻痺でからだが動かなくなったときにするものとのイメージを持たれる方も多いと思います。実際は精神的な部分、例えば「やる気が起こらない」「楽しみがもてない」状態や生活上のことが上手くできないなど、対象者がより自分らしい状態となり生活を送れるよう改善をはかることもリハビリの大きな役割といえます。

これから診療所のデイケアでも、参加者のリハビリになるようなプログラムを提案し関わっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

（郡司　孝行）

診療所日誌 ’13年12月～’14年6月

12月　見学者が多い年末です。

12 月 5 日　不老町地域ケアプラザから看護学生さん 2 名見学

12 月 10 日　製薬会社の社員さん、見学へ見える。

12 月 13 日　患者 I さん、消臭剤をご飯にかけて食べているところをヘルパーさんが発見。神奈川中毒 110 番に電話をし、問題ないことが分かり、安心。

　夜、忘年会。

12 月 20 日　デイケア、クリスマス会。

　患者 I さん、抗酒剤 DOTS 終了翌日からスリップ。何度も部屋へ戻しても来院し、他の患者さんと揉めたり、絡んだり…。次の日やっぱり覚えていませんでした。

12 月 25 日　掃除機につけるタイプの吸引機届く(のどを詰まらせた時用)。

12 月 27 日　田中医師、本日でしばらくお休みへ。

12 月 28 日　仕事納め。本年もたくさんお世話になりました。

2014 年 1 月　年明け、おとそが止まりません

1 月 4 日　年末年始中に、スリップしたり、病院を脱走したり、拘留されたりと方々から連絡が入る。

1 月 5 日　アパート転居しデイも卒業したKさん、4 年ぶりのスリップで入院となる。

1 月 9 日　病院を脱走したNさん、酔っての電話が頻繁にある(約 1 か月)。

1 月 15 日　デイケア、ろばの家と合同で餅つき。

1 月 16 日　三橋医師の診療が毎月第 3 木曜日になる。

　デイケア、Mさん入院先の病院で逝去。

1 月 17 日　内科吉廣医師、勤務開始。

1 月 31 日　患者Mさん、自分の便を隠そうとモップで掃除を始めて大参事。

2 月　大雪が 2 回も降りました。診療所の前も真っ白です。

2 月 1 日　デイケア、豆まき。

2 月 5 日　毎週水曜日、天野医師見学(1 か月)。

2 月 7 日　救急対応について、吉廣医師による講習会。

2 月 8 日　20 年ぶりの大雪。雪見酒の通りすがりの方、乱入。

2 月 19 日　デイケアメンバーのMさん退院。話し合いの結果、デイ復帰はせず自力で生活することに。刺激のない生活の方が安定した生活をおくれ、びっくり。

3 月　春休み、見学の方が多いです。

3 月 1 日　自転車の盗難防止用ワイヤーを切っていたTさん、100 キロ超級で昨日退院したMさん、相次いで亡くなる。

3 月 7 日　神奈川病院の職員さん、診療所の見学。

　昼休み、窒息した場合の救急対応の講習会。

3 月 14 日　在宅は無理だと言われていたTさん、元気に退院。まさかの復活。今日もデイサービスに通っています。

3 月 18 日　就労支援をしている「ベガサス」さんに患者さんが話を聞きに行く。

3 月 20 日　デイケアメンバーさん飲酒続く。本人と話合いの上、デイお休み、入院など。

3 月 31 日　患者西川紀光さんを書いた「毎日あほうだんす」(トム・ギル著)発刊。

4 月　入院の多い春です。

4 月 1 日　診療報酬改定。2 年に一度のこの時期は大変。
4 月 18 日　第 1 回業務改善委員開かれる(月 1 回)。
4 月 22 日　診療所の自転車、何故か行方不明。
4 月 24 日　デイケア 2 名終了。新規のメンバーさん募り中です。

5 月　診療体制変わりました。

5 月 10 日　作業療法士の郡司さん、毎週土曜日勤務開始。
5 月 17 日～18 日　デイケア、稲子で田植え。
5 月 20 日　レセコン新機種導入でパワーアップ。
5 月 22 日　DOTS に来ていたＳさん、ヘルパーさんに様子がおかしいと連れてこられ、脳梗塞で救急搬送。が、治療の必要なしとのことで帰宅。
5 月 24 日　宮崎医師、月 1 回往診していたが、診療所で診察をすることになる。
5 月 28 日　宮崎から警察の方出張で来訪。
5 月 31 日　DOTS に来ていたＳさん、脳出血で入院。

6 月　内科医師が増え、内科の新患さんが増えてきました。

6 月 3 日　在宅ターミナルのＩさん、入院へ。ヘルパーさんと訪問看護師さんに支えてもらっていました。
6 月 5 日～6 日　松本から高校生 4 名、実習に見える。
6 月 6 日　高齢者健康維持支援事業で訪問を続けていた方の往診依頼あり。
　年始にスリップしたＫさん、退院直後に再飲酒。現金を持っていたことが敗因か…。
6 月 12 日　DOTS に来ていたＫさん、来院しないので訪問すると、吐血している。
　アルコール依存症で寿を出たＮさん、待合室に久しぶりに現れ、一同びっくり。
6 月 17 日　PSW 大塚さん、勤務開始
6 月 20 日　真面目に DOTS に来ているＡさん、検査に来られないので訪問すると、ベットと荷物の間に挟まれ動けなくなっているところを救出。10 時間程経過していた模様。

（矢島　雅子）

寿町地域ニュース・あらかると
（’13年12月 ～’14年6月）

【国の貧困対策関係】改正生活保護法・生活困窮者自立支援法成立[’13.12.6]／アルコール健康障害対策基本法施行[6.1]【センター】横浜市健康福祉局・中区・建築局が「寿町総合労働福祉会館再整備基本計画」を策定[4 月]／設計業務の委託先選定手続き開始(プロポーザル方式)[5.23]／第 1 回会館建替え等専門部会と実務者会議の合同部会[5.27]／第 2 回会館建替え住民説明会[6.24]【労働】ことぶき就労サポートセンターオープン[4.1]【介護】デイサービス・ヘルパーステーション「ヒロナ」事業廃止[1.31]、事業所名「アン」に変更[2.1]【児童】「中区ことぶき青少年広場」に加え学習・生活支援を行う「寄り添い型学習等支援事業」開始(生活館 2 階)[4 月]【簡易宿泊所】ヒルズハウスオープン(寿町 1-1-5)[6.1]／(仮称)東会館新築中(寿町 3-9-6)／(仮称)長者町 1 丁目簡易宿泊所新築中(長者町 1-1-13)／(仮称)扇町 4 丁目簡易宿泊所新築予定(扇町 4-12-2、12-3)[6.27 現在]【弁当】ながいき弁当開店(配達あり)[2.24]【環境】センター周辺を中心とした地区内に生息していたネズミを駆除[2～3 月]／はまかぜ・寿福祉プラザ前の路上駐輪自転車撤去実施[3.26]

※ 寿町に関係する国の政策等も一部含まれます。

（寿町関係資料室　松本　一郎）